



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな館 49

福寿の里モンゴル村

遊牧民の生活を体験



▲モンゴルの移動式住居「ゲル」が立ち並ぶ

ひと口メモ

モンゴル村の村長には、モンゴルの天才歌手オユンナさんが就任。上矢作町の宿泊できる施設にはモンゴル村の他、上村川沿いに「コテージかわせみ」と「越沢コテージ」があり、特に夏季には多くの観光客でにぎわう。

草原の国モンゴルの移動式住居のゲルに泊まり、遊牧民の生活を体験できる上矢作町木の実地内にある施設。ゲルとは、木とフェルトで造られ、分解や組立が簡単にできる円筒形の移動式住居のこと。モンゴルから輸入した本物のゲルをベースにした建物が18棟あり、ベッドや家具など室内を朱色に彩色し、モンゴルの雰囲気を体験できる。

ここは上矢作町とモンゴル国との交流のさらなる発展と、交流人口による地域活性化を目指した施設で、平成12年に営業を開始し、本年度で11年目を迎える。

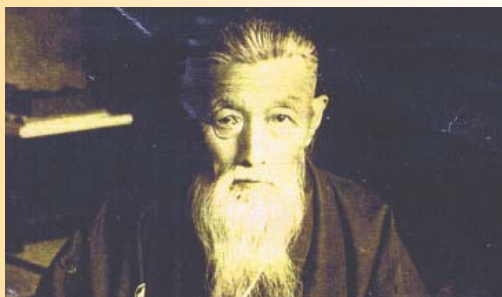


▲鮮やかな色彩が広がる「ゲル」の中。モンゴルから輸入した家具も置かれている

浅見与一右衛門

岩村電気軌道を開通

えな自慢
50
えな人



▲喜寿の祝いに撮影された浅見氏

ひと口メモ

恵南地域の商業や経済の活性化に貢献した浅見氏の功績をたたえて、岩村城山城址の銅像山公園には銅像が建てられており、大井町の中央通りには顕彰碑が祭られている。浅見邸は、岩村本通りに今も残っている。

岩村町で生まれ、岩村電気軌道を開通させた大庄屋の浅見与一右衛門。旧家浅見家の9代目として1843(天保14)年に生まれる。県議会議長や衆議院議員を歴任。明治時代の交通形態の変化で衰退する岩村城下町を復興するため、私財を投げ打ち1906(明治39)年、岩村と大井の間に全国で15番目の電気鉄道を開通させた。工事は旧小沢街道(一部現阿木川ダム湖底)の溪谷約10^キなどの難工事の連続であったといわれている。1924(大正13)年に81歳で没。三男浅見与七は、東京大学を卒業後、同大学農学部教授、名誉教授を務め、三好学に続いて東大附属植物園園長となった。



▲浅見氏が開通させた岩村電気軌道の開通当時の電車(場所は東野)

次号は6月15日号
発行日は6月15日(水)です

広報えな No.152
2011年(平成23年)
6月1日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎(0573)26-2111/☎25-6150
<http://www.city.ena.g.jp/> ☎info@city.ena.g.jp

『広報えな』6月1日号、1部当たりの印刷経費は約111.1円(税込み)です。



◀市安心安全メール配信システム(登録用QRコード)

市WEB版文字放送システム(閲覧用QRコード)▶

口問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。